

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 飯田市

1 事業の趣旨・目的

現在飯田市内には4箇所（飯田市公民館、竜丘公民館、山本公民館、ハート・イン・ハート和楽）で日本語教室が開かれているが、夜間の教室が1箇所のみ、また外国籍市民が多く居住している地域には教室が少ないという状況がある。そこで21年度に実施した日本語支援者養成講座修了者の活動の場を創設することで、日本語を学びたい方の学習環境を充実させることを目的に、新しい日本語教室（教室名：にほんご交流広場「わいわいサロンⅡ」）を立ち上げ運営する。また、次年度以降の自主的な運営を目指す。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月15日	飯田市公民館	樫野 武司 吉澤裕美子 氏原理恵子 大澤志那子	事業の進め方全体について	・運営委員委嘱書授与 ・教室設営の場所、時間帯について ・日本語支援者（教授者）の組織作りについて ・学習方法と内容
10月25日	飯田市公民館	樫野 武司 吉澤裕美子 氏原理恵子 大澤志那子	事業開始の遅れと今後の進め方について	・事業開始が遅れ11月以降となることについての説明 ・改めて教室設営の進め方について、確認 ・期間短縮に伴い、授業頻度を多くすることで対応
11月27日	飯田市公民館	春原 直美 樫野 武司 吉澤裕美子 氏原理恵子 大澤志那子	教室開設に向けて	・支援者の状況とスタッフミーティングの様子 ・教室の開設場所、時間 ・受講者募集状況
12月26日	上郷公民館 （日本語授業に合わせて）	春原 直美 樫野 武司 氏原理恵子 大澤志那子	開講後の進捗状況	・日本語学習の見学 ・支援者と懇談

2月26日	飯田市公民館	春原 直美 樫野 武司 吉澤裕美子 氏原理恵子 大澤志那子	事業終了にあたり	・教室の様子報告、反省 ・今後の教室活動について ・飯田市、近隣町村も含めた他の教室との連携について
-------	--------	---	----------	--

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称

にほんご交流広場「わいわいサロンⅡ」

② 開催場所

鼎公民館、上郷公民館

③ 学習目標

初級の日常会話を中心とし、日本語での会話に慣れ、職場や生活の場面で、日本人とのかかわりを持つ機会を増やす。また、レベルの違う学習者（上級者やゼロビギナー等）の学習希望があった場合は、それぞれのニーズにできるだけ合った学習を進める。

④ 使用した教材・リソース

- ・主なテキスト 『にほんご45じかん』、『日本語おしゃべりのたね』
- ・その他支援者の独自教材等

⑤ 受講者の募集方法

チラシを関係機関（市役所外国人登録窓口、人材派遣会社、既存の日本語教室等）へ配布（別紙チラシ参照）

⑥ 受講者の総数 26 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）

（国籍別内訳 ブラジル20人、アルゼンチン2人、中国、台湾、米国、英国各1人）

⑦ 開催時間数（回数） 42 時間 （全 21 回）

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	12月6日 19:00～21:00	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(8) 台湾・中国語(1)	教授者5人	学習者インディビ 個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
②	12月13日 19:00～21:00	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(9) 台湾・中国語(1)	教授者5人	個別・グループ学習 『日本語おしゃ べりのたね』他使 用
③	12月19日 14:00～16:00	2時間	12人	ブラジル・ポルトガル語(9) アルゼンチン・スペイン語(2) 台湾・中国語(1)	教授者5人	学習者インディビ 個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
④	12月20日 19:00～21:00	2時間	7人	ブラジル・ポルトガル語(6) 台湾・中国語(1)	教授者5人 補助者1人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑤	12月26日 14:00～16:00	2時間	7人	ブラジル・ポルトガル語(6) アルゼンチン・スペイン語(1)	教授者7人 補助者1人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑥	12月27日 19:00～21:00	2時間	6人	ブラジル・ポルトガル語(6)	教授者4人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑦	1月9日 14:00～16:00	2時間	3人	ブラジル・ポルトガル語(1) 台湾・中国語(1) 中国・中国語(1)	教授者5人 補助者1人	個別・グループ学習 独自教材等使用
⑧	1月10日 19:00～21:00	2時間	8人	ブラジル・ポルトガル語(7) 台湾・中国語(1)	教授者5人	個別・グループ学習 『日本語おしゃ べりのたね』他使 用
⑨	1月16日 14:00～16:00	2時間	5人	ブラジル・ポルトガル語(4) 台湾・中国語(1)	教授者7人 補助者1人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑩	1月17日 19:00～21:00	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(8) 台湾・中国語(1)	教授者4人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑪	1月24日 19:00～21:00	2時間	5人	ブラジル・ポルトガル語(5)	教授者4人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じ かん』他使用
⑫	1月30日 14:00～16:00	2時間	5人	ブラジル・ポルトガル語(3) 台湾・中国語(1) 中国・中国語(1)	教授者4人	個別・グループ学習 『日本語おしゃ べりのたね』他使 用
⑬	1月31日 19:00～21:00	2時間	7人	ブラジル・ポルトガル語(5) 台湾・中国語(1) イギリス・英語(1)	教授者3人	個別・グループ学習 独自教材等使用
⑭	2月6日 13:30～15:30	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10)	教授者2人	飯田市防災運 動会参加

⑮	2月7日 19:00～21:00	2時間	8人	ブラジル・ポルトガル語(5) 台湾・中国語(1) イギリス・英語(1) アメリカ・英語(1)	教授者2人	個別・グループ学習 『日本語おしゃべりのたね』他使用
⑯	2月13日 14:00～16:00	2時間	5人	ブラジル・ポルトガル語(5)	教授者3人	個別・グループ学習 独自教材等使用
⑰	2月14日 19:00～21:00	2時間	4人	ブラジル・ポルトガル語(4)	教授者1人 補助者1人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じかん』他使用
⑱	2月20日 14:00～16:00	2時間	1人	ブラジル・ポルトガル語(1)	教授者1人	個別学習 絵カード等使用
⑲	2月21日 19:00～21:00	2時間	4人	ブラジル・ポルトガル語(4)	教授者4人 補助者1人	個別・グループ学習 『にほんご 45 じかん』他使用
⑳	2月27日 14:00～16:00	2時間	2人	ブラジル・ポルトガル語(2)	教授者5人	個別・グループ学習 独自教材等使用
㉑	2月28日 19:00～21:00	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(6) 台湾・中国語(1) イギリス・英語(1) アメリカ・英語(1)	教授者5人 補助者1人	個別・グループ学習 コースの振り返り 『にほんご 45 じかん』他使用

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

1月16日(日)14:00～16:00

午後2時前に支援者7人と補助者1人が集合。だれがどの学習者を担当するか簡単に打ち合わせ。2時過ぎに学習者が次々に到着し、来た人から支援者とレベル別にグループになって学習開始。

【グループ1】支援者1(西さん)、補助者1(平田さん)ー学習者1(ブラジル人、日本語ほぼ0)
『にほんご 45 じかん』をメインにしながら、時間の言い方、〈時間〉に 〈動詞〉ます／ました などの言い方や質問、答えを学習した。

【グループ2】支援者1(ジャロさん)ー学習者1(ブラジル人、日本語初級前半)
数や値段の言い方、ファーストフードのメニューなどを使って、注文時の言い方等を学習した。学習者が出産をひかえていることから、出産準備や病院での会話、保育園のことなどについて談話もした。

【グループ3】支援者1(岡田さん)ー学習者1(ブラジル人、日本語初級後半)
助数詞、日付等の言い方を学習し、買い物の場面での会話を練習。また、旅行などの経験について、どうだったかなどの会話をした。『にほんご 45 じかん』を資料として使用した。

【グループ 4】支援者 2 (奥村さん、飯島さん)－学習者 1 (ブラジル人、日本語初級後半)

支援者が作成したカードなどで、漢字 (日本語能力試験 N5 程度) の学習を中心に行った。

【グループ 5】支援者 2 (井口さん、下岡さん)－学習者 1 (13 歳台湾人、日本語初級前半)

『日本語学級 2』を主に使いながら、読む、書く練習。その後学校のこと、テレビのこと、台湾のことなどについて談話。

午後 4 時 5 分前くらいからそれぞれのグループで、学習内容の振り返りをし、学習者それぞれは、その日学習したこと、支援者名、感想などを各自の学習記録に記入。支援者もそれぞれ学習日誌を記入し、終了。

1 月 31 日 (月) 19:00～21:00

夜 7 時前に支援者 3 人が集合。だれがどの学習者を担当するか簡単に打ち合わせ。7 時過ぎに学習者が次々に到着し、来た人から支援者とレベル別にグループになって学習開始。

【グループ 1】支援者 1 (下岡さん)－学習者 1 (ブラジル人、日本語ほぼ 0)

『にほんご 45 じかん』と支援者所有のことは絵辞典などを使いながら、「きのう テレビを みましたか。」「いいえ、みませんでした。」など、くを格をとるシンプルな動詞文の受け答えを学習。そのほか絵じてんを見ながら、スポーツやブラジルの動物の話などをした。

【グループ 2】支援者 1 (飯島さん)－学習者 2 (ブラジル人 2、通訳等をされている方々)

学習者一人は、日本語能力試験 N1 に向けての学習。学習者所有の問題集について学習。もう一人は漢字を覚えたいということで、教室スタッフ準備のプリントで日本語能力試験 N4 レベ程度の漢字を学習。支援者は学習者がわからない部分についてその都度説明等をして学習を支援した。

【グループ 3】支援者 1 (山崎さん)－学習者 4 (ブラジル人 2、イギリス人 1、台湾人 1、日本語初級)

4 人の学習者が同じグループで学習するのは初めてだったため、まず簡単に自己紹介と談話。4 人を二人ずつ 2 チームにして、チーム対抗のゲーム形式で、文の構造、語順、助詞などに留意した作文練習。支援者が作成した単語カードを拾って、チームごとに自由に作文をし、お互いに評価しあう。できた文を読む練習もした。

9 時 5 分前くらいからそれぞれのグループで、学習内容の振り返りをし、学習者それぞれは、その日学習したこと、支援者名、感想などを各自の学習記録に記入。支援者もそれぞれ学習日誌を記入し、終了。



上記以外での
(月) クラスの
ようす



上記1月31日(月)
のグループ1

上記1月16日(日)
のグループ3(手前)
とグループ4



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
川島 健一	中国語(中国)	5年	5回	日本語教授
平田 明美	ポルトガル語(ブラジル)	20年	7回	授業補助、通訳

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
山崎 りえ子	日本語ボランティア		10回	日本語教授
井口 一紀	日本語ボランティア		5回	日本語教授
木下 弘子	日本語ボランティア		7回	日本語教授
下岡 恭子	日本語ボランティア		13回	日本語教授
篠田 初美	日本語ボランティア		9回	日本語教授
飯島 満子	日本語ボランティア		8回	日本語教授
岡田 千文	日本語ボランティア		7回	日本語教授

ジャロ 京子	日本語ボランティア		5 回	日本語教授
竹村 久永	日本語ボランティア		4 回	日本語教授
西 まき子	日本語ボランティア		6 回	日本語教授
奥村 哲也	日本語ボランティア		7 回	日本語教授
大澤 志那子	飯田市公民館	日本語教育能力検定試験合格	21 回	コーディネーター

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

- ・ほとんどの学習者が、学習前より日本語の使用機会が増えたと、授業最終日口頭アンケートでは応えた。
- ・文字の学習をし、ひらがな・カタカナ・漢字を少しでも覚えることができたとした人は4人。

② 学習者の習得状況

- ・日本語がほぼゼロに近い学習者1名は、毎週出席し、日本語でのやりとりがわずかではあるができるようになった。
- ・文字の習得を希望していた学習者は、学習前よりもひらがな・カタカナを覚え、簡単な漢字も少し習得できた。
- ・少しではあるが、教室で日本人と会話することで、教室外(職場や学校など)でも日本語に対して興味が出て来た人が増えた。
- ・ことばだけでなく、学校の仕組みや日本人の考え方などの情報も、日本語支援者との会話から得ていた学習者が多かった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

- ・これまで教室がなかった時間帯や曜日を設定したことで、今まで学習したくても予定が合わなかった学習者が参加することができた。こうして勉強できること自体が嬉しいという声を多く聞いた。
- ・昨年日本語支援者養成講座を受講した方が、学習したことを生かして活動できる場を提供することができた。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

- ・教室活動の一環として、社会福祉協議会主催で行われた防災運動会というイベントに参加した。学習者は防災に対する意識を高めることができ、また、一般の参加者には、地域に生活する外国人を含めた防災対策の大切さに少しでも気付いていただくことができた。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

- 現状 2月末でいったん教室が終了したが、3ヶ月のみの教室だったため、学習者も支援者も、今後も継続して学習することを希望している人が多い。
- 今後の課題 十分なボランティアの確保。学習内容、教え方、カリキュラム等の検討。ボランティアのスキルアップ研修。教室運営体制の整備。

c. 今後の活動予定, 展望

・教室再開の希望が高いため、なるべく早い時期に再開できるよう、支援者の方々とも連携して検討する。当面は公民館の教室としてスタートし、少しずつ自主運営できるグループへと育てていくような方向性が望ましい。

③その他参考資料

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。